

「新人目線」の用語解説

語句よみ

第176号



今回のテーマ Society 5.0の実現で身近になる次世代技術

政府が今月発表した新たな成長戦略「未来投資戦略 2017」では、「Society 5.0」の実現に向けた取り組みなどが紹介されました。どのような内容なのでしょう？今回は、Society 5.0と実現のカギとされる次世代技術について調べてみました。

日興アセットマネジメントの新人。お客様に有益な情報をお伝えすべく、投信や経済について勉強中。

1. Society 5.0

Society 5.0とは、狩猟社会、農耕社会、工業社会、情報社会に続く新たな経済社会とされ、政府の戦略では、ロボットやビッグデータ解析、IoT (Internet of Things)、AI (人工知能) などの先端技術をあらゆる産業や社会生活に取り入れ、「必要なモノ・サービスを、必要な人に、必要な時に、必要なだけ提供する」ことにより、様々な社会課題の解決をめざすとしています。2015年に内閣府の総合科学技術・イノベーション会議がまとめた「第5期科学技術基本計画」で初めて定義されました。

未来投資戦略 2017では、次の5分野をSociety 5.0実現のための戦略分野とし、政策資源を集中的に投入するとしています。

- ・「健康寿命の延伸」→団塊世代が75歳以上となる2025年までに、ビッグデータ解析やAI、IoTを健康管理や遠隔診療などに活用することで、生涯現役社会を実現する。
- ・「移動革命の実現」→無人自動走行やドローン(小型無人機)による荷物の配送などにより、物流効率化と移動サービスの高度化を進め、交通事故の減少や人手不足の解消、過疎地などの移動手段を持たない人々の移動手段確保につなげる。

ステップアップ

海外での同様の取り組みとしては、IoTを使って生産・供給活動を高度に自動化することをめざすドイツの「Industry 4.0」や、産業機器から集めたビッグデータ解析の分析により、生産性の向上を図る米国の「Industrial Internet」、IT技術と製造業の融合により世界トップクラスの製造強国を目指す、中国の「中国製造2025」などがあります。



(次のページへ続きます)

□当資料は、日興アセットマネジメントが経済一般・関連用語についてお伝えすることなどを目的として作成した資料であり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、当資料に掲載する内容は、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。□投資信託は、価値のある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

- ・「サプライチェーンの次世代化」→商品の開発から消費までのデータを収集し経営に活かす企業の増加を後押しすることで、製造業全体の労働生産性の向上をめざす。
- ・「快適なインフラ・まちづくり」→インフラ点検や災害対応ロボットの開発促進など、ICT・ロボット・センサーなどを活用することで、道路や橋、ダムなどのあらゆる建設現場の生産性向上をめざす。
- ・「FinTech」(フィンテック) →実証実験のための環境整備などにより、ブロックチェーンの実用化に向けた取り組みを加速する。また、キャッシュレス決済の安全性や利便性向上などにより、今後10年間でキャッシュレス決済比率の倍増をめざす。

これらの実現に向け、AIやビッグデータ解析、ロボットなどの技術開発を戦略的に進めるために、政府は2016年度から5年間でGDP比1%にあたる約26兆円を投じる計画であるほか、関連する規制を一時的に凍結することで、実証実験を容易にし、既存の枠組みにとらわれないビジネスモデルの発展を促す「サンドボックス」制度を早期に創設することなどをめざしています。

2. 次世代技術

Society 5.0を実現するカギと考えられているのが、ロボットやビッグデータ解析、IoT、AIなどの次世代技術です。これらの技術により、様々なビジネスや生活の在り方が変わると考えられています。

例えば、AIを使ってロボットの故障を予測し、事前に対処することで生産効率を上げたり、工場の完全自動化など、新たな技術の活用が進んでいます。また、介護の分野では、AIやIoTを使って、介護される人の状態に応じたきめ細かい介護サービスの提供やケアプランの作成、介護者の負担を軽減する介護ロボットなどが挙げられます。その他の分野では、健康情報などのビッグデータをAIが解析することによる医療の質向上や、トラックの後続無人隊列走行などが想定されています。

これらの技術革新の実現に向けては、欧米の取り組みが先行している分野も多くあります。しかし、日本は東京オリンピックに向けた建設ラッシュや深刻な少子高齢化による労働力人口の減少などに伴う人手不足を背景に、AIやロボットなどの、生産性を向上させる技術への需要が高く、また、新たな技術革新が引き起こすとされる失業問題への懸念も少ないとみられることから、今後の官民一体の巻き返しが期待されます。

Society 5.0は、非常に多岐に渡る分野に影響を及ぼし、私たちの生活を大きく変えることが想定されます。ロボットやAIが私たちの生活をより良くすると期待したいですね。

ステップアップ

日本は、早くから導入が進められてきた産業用ロボットの分野においては、高い技術力と世界シェアを背景に、国際的な競争力を有する「ロボット大国」としての地位を維持しています。

